

(社) 日本原子力学会  
第76回倫理委員会議事要旨

日 時 平成26年1月15日(水) 13:30~17:00  
場 所 日本原子力学会 事務局会議室  
出席者 大場委員長、宮越副委員長、作田幹事、北村委員、関村委員、辻委員、  
名倉委員、林委員  
柴田理事

(9名：委員名簿順)

橘氏 (オブザーバー)

配布資料

- 資料76-1 第75回倫理委員会議事要旨 (案)
- 資料76-2 2014年春の年会倫理委員会企画セッションの概要
- 資料76-2別紙1 「技術者倫理、規制の倫理、報道の倫理」奈良林先生
- 資料76-2別紙2 「倫理規程改定の概要」大場委員長
- 資料76-3 技術者・研究者倫理研修の実施計画について
- 資料76-4(1) 倫理規程見直し案について(1)
- 資料76-4(2) 倫理規程見直し案について(2)
- 資料76-5(1) 倫理委員会委員への立候補のお願い(1)
- 資料76-5(2) 倫理委員会委員への立候補のお願い(2)
- 参考1 日本原子力学会の行動指針 (案)
- 参考2 第11回「原子力に関する倫理研究会」アンケート用紙

議事

1. 資料76-1により、前回議事要旨(案)を確認し、5項においての誤字修正と、6項については()番号を付してわかりやすくすることで了承された。
2. 資料76-2により、2014年春の年会倫理委員会企画セッションの概要と役割分担等について、辻委員から説明があった。また、資料76-2別紙1と別紙2により、講演内容について大場委員長から説明があった。宮越副委員長が座長を務め、二人の講演内容のつながりに焦点をあて、会場からの質問時間もとれるように進行することとした。企画セッション出席の委員は、そのつながりに関連した質問を考えておくこととした。辻委員および中野委員は当日の会場係と学会誌への投稿を、作田幹事および北村委員は議事録の作成に協力することとした。
3. 資料76-3により、JAEA殿の技術者・研究者倫理研修の実施計画について、林委員から説明があった。研修のフォローアップが確実にできるように個別に、また適切な時期にフォローできる方がよい、アンケートの「理解できた」は何について理解できたのか、カテゴリー分けなどをするとよりわかりやすくなるのではないか、アンケートの目的を明確にした方がよい、研究職と技術職を分けて考えてはどうか、など多くの意見が

出された。講演予定者の北村委員が作成するレジメに基づいてアンケートなどは再考することとした。

4. 資料76-4(1)(2)および参考1により、倫理規程の見直し案について、大場委員長および宮越副委員長から説明があった。定款の改定に合わせた語句の統一などについて了承された。前文の最初の段落の文章は、解説書表現から理念を謳いあげる表現にまとめなおすこととした。前文の最後の「・・・ことを約束する。」はトルこととした。憲章7は、「会員は、個人の行動が所属する組織の文化の影響を受けることを認識し、倫理規程に則った行動をとるよう組織文化の醸成に積極的に取り組む。」とすることとした。学会の行動指針(案)の「高い技術倫理を醸成する」は、「高い倫理観を醸成する」の方がよい、「安全」の定義を脚注にでも入れた方がよい、との意見も出された。宮越副委員長は、2月中に倫理委員会ホームページに倫理規程改訂案を掲載することを目標として、これまでに提出された意見などを反映した倫理規程改訂案をメールにて全委員に周知し、コメントを集約のうえ、最終案をまとめることとした。

#### 5. その他

- (1) 三菱重工業の宇奈手様、および東芝の福家様の立候補願いについて審議され、承認された。1月30日の理事会に諮ることとし、柴田理事から説明することとした。また、委員の増強については、今の時点で倫理的な課題を議論することが重要であるので各委員が積極的に取り組むこととした。この取組みと並行的に倫理委員会のミッションなどの再確認も併せて行うこととした。
- (2) 第17回倫理研究会(H26.01.29開催予定)について、名倉委員から説明があった。現在、約45名の参加申込があるが、各委員は更に参加者の増員について働きかけることとした。また、倫理委員立候補者に対しては、作田幹事から案内することとした。参加者へのアンケート調査も実施することとした。
- (3) 倫理委員会の今後の活動計画について議論した。今、足りていないところの議論が重要、規程冊子の作成などについて意見が出された。冊子作成のための事例の収集については、インターネット上で公開されている各種議事録にあたることも有用との意見があった。委員会は多様な人がいる方がよく、外からの指摘も重要であり、オブザーバー参加などの制度を活用すればよい。大学での倫理教育の実態調査を行うこともよい。事例(教材)は、先生にとっても学生にとっても非常に役立つはず。以上のような活動は、各ワーキンググループを作って対応することも可能との意見が出された。
- (4) 2014年秋の大会の企画セッションについては、倫理規程の改訂、規程冊子の作成なども視野に入れながら、テーマを検討していくこととした。

6. 次回倫理委員会は、平成26年3月12日(水)13:30～(学会事務局)とすることとした。

以上